

令和6年度 第4回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

1 日 時

2024年（令和6年）7月6日（土）午後1時～午後4時52分

2 場 所

藤沢市役所 本庁舎5階5-1会議室

3 出席者

（1）委員 9人

山岡委員長、坂井副委員長、大高委員、大場委員、鍛地委員、関野委員、新實委員、水戸委員、森田委員

（2）プレゼンテーション参加団体 計7団体

＜スタート支援コース＞ 5団体

- ・働く授乳コミュニティ Cocochie（ココチエ） ・BOOKで「食と学び」のコミュニティをつくる会 ― ”おいしいサステナ文庫” でつながろうー
- ・特定非営利活動法人育ち合い広場・てとてとて ・辻堂砂山子ども食堂
- ・Will CONNECT

＜ステップアップ支援コース＞ 2団体

- ・湘南多文化ガーデン ・湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会

（3）事務局 6人

木村参事、森主幹、緒方専任上級主査、伊佐治主任、川島主任、土倉職員

（4）伴走支援者 1人

（5）傍聴者 2人

4 議 題

令和6年度ミライカナエル活動サポート事業スタート支援コース及びステップアップ支援コースの審査選考（プレゼンテーション審査）について

（1）プレゼンテーション（公開）

（2）審査選考（非公開）

います。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の発表内容は、1「団体概要について」、2「事業説明について」、「仕事と授乳を快適に！母親が繋がる場づくり」について説明していきます。

まず、団体概要についてです。働く授乳コミュニティ **Cocochie**（ココチエ）とは、キャリアを持つ母親が、心地のいい授乳ができ、居心地のいい家庭や社会で、私の知恵によって、私を大切にする環境をつくることをめざす市民活動団体です。

こちら（資料）が実際の活動の様子です。

3年後、「仕事復帰と母乳育児についての情報がすぐ手に入るようコミュニティが地域に定着しているミライ」を目指します。そのために、「専門性を活かし、個別性に配慮した母親がセルフケアできるコミュニティづくり」に団体として取り組みます。

2、事業について説明します。

広報とコミュニティづくり、2つの柱で、「仕事と授乳を快適に！母親が繋がる場づくり事業」を実施します。

ここからは、一次審査での藤沢市市民活動推進委員会委員からの質問、意見等を踏まえて変更した点を赤字で記載しています。今回は赤字を中心に説明させていただきます。

広報事業においては、コミュニティの周知を目的とし、紙媒体の作成や湘南藤沢オーパにて相談会を実施します。作成した紙媒体は、インターネット上でダウンロード可能にします。

コミュニティづくりについては、テーマ設定した連続性のある座学とグループワークを対面とオンラインにて交互に実施します。テーマの例としては、母乳育児と家族とのかかわり、産後ケアや相談先、出産関連制度や手当について、仕事復帰についてを取り扱いたいと考えています。

連続したコミュニティを全3回程度行うことで、母親同士の交流を図ります。人数は1回につき15組程度、子どもを合わせて30人程度としています。

活動の実施場所です。相談会は、湘南藤沢オーパの1階カウンター、または8階応接室、資料14ページの写真の一番左の部屋です。コミュニティについては、真ん中の写真の8階会議室、チラシの配架場所は、一番右側の写真の階段掲示板に配架することを検討しています。

「目指す成果目標及び効果」については、コミュニティの参加者が1回につき15組

(30 人) × 3 回で、90 人の母親と子どもがセルフケア能力を高め、そこから藤沢市の年間出生数の約 3000 人の母親に認知が広がることをめざします。

コミュニティに参加することでの成果測定の指標としては、参加後のアンケートにて、3 つの点に着目します。1 つ目は、感情のポジティブな変化。2 つ目は、参加してよかったかどうか。3 つ目は、友人や知人に勧めたいと思うかについて測定します。

事業計画については、前半にコミュニティの周知を目的として相談会や紙媒体の作成を行い、後半にコミュニティのほうを実施します。毎年 10 月の終わりから 11 月ごろにかけて、次年度の保育園の入所申し込みが始まり、結果は 1 月の終わりごろから 2 月ごろに通知されるため、その時期に合わせて「母親が繋がる場づくり」を行いたいと考えています。

収支予算についてです。収入はミライカナエル活動サポート事業からの補助金 15 万 5000 円を考えています。今後は会費の徴収を検討しています。

支出については、印刷製本費から使用料へ 1 万 5000 円移動し、内訳はこのとおりです。コミュニティが地域に定着するように努めたいと考えています。

湘南藤沢オーパで活動する理由ですが、職場・雇用主への啓発として、企業での実施を考えているからです。

私が活動を始めた理由ですが、一言で言えば、自分自身が困ってきたからです。今 4 人目の育休中で、資料 21 ページの一番左側の赤ちゃんが、右側の真ん中の子で、今 11 カ月になります。1 人目と 2 人目のときは違う仕事をしていて育休がなかったので、長男は生後 11 カ月から、次男は生後 4 カ月のときに仕事復帰しました。母乳育児との両立にたくさん悩んできて、自分のような母親がほかにもいたら、今の自分に何かできることはないかと考えたことがきっかけの 1 つです。

最後になりますが、この事業を通じて、「女性活躍と母乳育児」に社会的な変化が生じ、今よりも女性が活躍するミライに変化することを期待して、発表を終えます。

ご清聴ありがとうございました。

(新實部会長) 発表が終わりました。

委員の方からご質問ありますでしょうか。

(大場委員) 1 つ質問させていただきます。今回、仕事復帰と授乳に関する活動をするということですがけれども、差し支えなければ、具体的に何が妨げになって、それに対する具体策があるのか。そのあたりも聞かせていただけたらと思っております。よろしくお

願いいいたします。

(働く授乳コミュニティ Cocochie) 問題、理想とのギャップとして、母乳育児を諦めざるを得ない社会的な環境があると考えています。それは何かというと、仕事復帰して仕事をしている母親がふえたことで、まずそういった社会的な認知の不足として、早くからミルク、人工栄養を利用しなければいけないというような乳業業界のマーケティングとか、そういったところと、周りに母乳育児を続けたいという気持ちを発するような場がまずないことです。あとは情報が今、過多というか、いろんな情報があふれていますので、その中でどれが根拠のある情報かというのを今子育てしているお母さんたちが取得しづらいというところで、ロールモデルが近くにいない、そういったところに対して団体として取り組みたい。母乳育児を諦めざるを得ない社会的環境に対してのアクションを起こしたいと考えています。

(森田委員) お伺いしたかったのは、コミュニティという言葉を使っていच्छやったんですけれども、具体的にどんなイメージを持っていच्छやるのか。コミュニティは多分受け取る側によってかなり違うかなと思いますし、それを地域に根づいたものにされたいというお話がありました。あとは目的として実際に参加者の想定の 90 人を藤沢市全体の（年間出生数の母親）3000 人にふやしたい。あまり広げなくてもいいかなとは思いますが、その方法みたいなものも、今イメージされているものをお聞かせください。

(働く授乳コミュニティ Cocochie) コミュニティとしては参加者で輪になって話すようなものをイメージしています。座学については対面ですけれども、それが終わった後に、共同体感覚を築くことを1つの目的、めざすところにしています。母親同士がつながって、一緒に子育てと仕事を頑張ろう、母乳育児を大事にしようというところで輪になるようなイメージを考えています。授乳の手技の方法を指導するとか、母乳育児の支援にはいろいろな方法がありますが、私たちとしては支援し、応援するような気持ちで、一緒に輪になって、今困っていることに対してみんなで考えようというところをイメージしています。

あと、90 人の母親からどうやって年間 3000 人のお母さんたちに周知するかについては、今のところは SNS を活用して、今、団体としてInstagramをつくっておりますので、そういったところから広げていきたいと考えています。

すみません、ちゃんとした答えになってないと思うのですが、以上です。

(森田委員) もう一個だけ。オーパの場所を確保されているのは団体さんで、その後、地域に根づいたといった場合は、そこからまた離れて、自立的なコミュニティをめざすのでしょうか。それともオーパを基盤にしてやるという想定ですか。

(働く授乳コミュニティ Cocochie) 現在は後者です。オーパは手段の1つとして、ほかに藤沢に13地区あると思うんですけども、団体としては、いろんな地区で活動がきたらなと。各地区で何か催しができたらなというのは考えております。公民館とか、そういったところも視野に入れて活動していきたいと考えています。

(大高委員) 一部、言葉尻を捉える形になって申しわけないのですが、私から3つほど伺いたいと思います。

キャリアのある母親ということが対象になっていると思うんですけども、キャリアのない母親は対象外というふうに把握していいのかどうかというのがまず1つ目です。

2つ目が、最後のほうのページにございまして、先ほど森田委員からもお話がありました、藤沢市の年間出生数の約3000人の母親が対象というふうに書いてあるんですけども、そのうち、出産後も働く母親というのが、その3000人のうちのどれぐらいの規模を指しているのかというところを確認したいです。

3つ目が、「目指す成果目標及び効果」のところですが、コミュニティに参加いただいた方々から、参加後のアンケート調査ということで、①、②、③と書いてあるんですけども、これはどういう定義で成果ありか、なしかというのを定義づけるのか。何か数値化するのか。要は定性的なのか、定量的に判断するのか。そのあたりを詳しく教えていただければと思います。

以上、3つです。

(働く授乳コミュニティ Cocochie) キャリアのない母親は対象外なのかというところですが、対象は全ての母親にはなるんですが、キャリアを広く考えております。その人が勉強してきたこととか、その方が培ってきたものに対して、それが出産や子育てにおいて両立が難しく仕事をやめる方もいると思うんですけども、そういった方も広くは対象として捉えたいというところが団体としてはあります。

2つ目で藤沢市の出生数の3000人に対しての働く人の割合ですけれども、厚生労働省が出していた数値だと思うんですが、第1子を出産して仕事復帰される方が約7割というようなデータがありましたので、藤沢市で考えると、約2100人。2000人ぐらいの方が恐らく仕事復帰される。2人目、3人目となると、子どもを養うために働く方も

ふえてくるというように個人的には考えておりますので、藤沢市においてもそのくらいの人数の方が対象になり得ると考えております。

3つ目のアンケートの定義については、まだ難しいところではあるんですが、アンケートの段階的な評価をして肯定的な数値が得られるか……。すみません、そこは団体としても、とても悩んでいる点でして。

(大高委員) もし決まっていなければ、決まっていないということで大丈夫だと思います。

(働く授乳コミュニティ Cocochie) すみません、そこについてはまだ考えが至っていない状況です。

(水戸委員) 今のお答えの中から1つ質問ですけれども、キャリアがあるないにかかわらず、全ての母親の方が対象と今おっしゃったかと思うのですが、中には母乳育児ができない女性もいらっしゃるかと思うんですね。人工乳に頼らなければいけない方もいらっしゃるかと思うのですけれども、そういった方も一緒に活動されようということを計画されていらっしゃるかどうか伺いたいなと思います。

(働く授乳コミュニティ Cocochie) 母乳が出ない方、例えば基礎疾患で、ターナー症候群とか、あと、お薬で、抗がん剤や向精神薬の使用によって与えられない方というのはもちろんいらっしゃる。そういったところは、数としてはとても限られた方で、そういった方に対しても、団体としては、人工栄養を与えている方も対象として考えているところがまず1点。

また、1回でも母乳を与えたら、あなたは母乳育児をしているんですよというところを大事にしていきたい。肯定的に捉えていただきたいというところを大事にしたいと考えています。なので、与えられない方はもちろん存在しますし、多くは周りの保健医療従事者の支援不足だったり、乳業業界のマーケティングだったり、いろいろな問題があると思うのですけれども、私どもとしては人工栄養、ミルクを与えているお母さんたちも対象にしたいと考えております。

(新實部会長) 時間ですので、これで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

(団体入れ替え)

②BOOK で「食と学び」のコミュニティをつくる会ー” おいしいサステナ文庫” でつな

がろうー

(新實部会長) 続きまして、BOOK で「食と学び」のコミュニティをつくる会ー” おいしいサステナ文庫” でつながろうーの「地産地消推進による食の藤沢ブランディング」について発表をお願いいたします。

(BOOK で「食と学び」のコミュニティをつくる会ー” おいしいサステナ文庫” でつながろうー (以下、「BOOK で「食と学び」のコミュニティをつくる会」)) BOOK で「食と学び」のコミュニティをつくる会ー” おいしいサステナ文庫” でつながろうー代表の尾島でございます。本日は営業・渉外担当、それから備品担当を含めまして3名でプレゼンテーションさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

ことし5月度に市民活動支援センターに活動登録をさせていただいたばかりのフレッシュな団体でございます。藤沢市の地産地消推進に貢献をしながら、食を通じた豊かな市民生活向上をめざす社会課題貢献型ビジネスでございます。

本から得られる「知や学び」のコンテンツに触れながら、藤沢ならではの地域活性化や旬の食文化を理解し、市民みんなで地産地消、サプライチェーン強化に向かって、若い人も高齢者も、障がいのある方も、企業も教育機関も、当たり前に参加したくなるようなブームをつくる、そういった活動でございます。

事前に委員の皆様からご質問、ご意見をたくさん頂戴いたしました。それらをまとめまして、大体5つの質問内容に分類させていただいております。それについて、こちらのパワポでは、一つ一つのカテゴリーについて文面でうたわせていただいております。

ただ、お時間に限りがありますので、事業の構想の全体を俯瞰した資料ページでポイントを説明させていただくことにいたします。また、現状の活動実績であるとか、今後購入検討の書籍リスト等についても、これからお見せさせていただくパネルでご紹介させていただきたいと思います。

ページをたぐります。今申し上げたようなことの一つ一つは俯瞰したところでお話をさせていただきます。こういったページのパネルも用意してございます。随時見ていただきながらになります。

私のほうは俯瞰ペーパーで全体の説明をさせていただきたいと思います。16 ページのパワポをごらんいただきたいと思います。それから実績や書籍リスト等についてもパネル化してまいりましたので、そちらも見ていただきたいと思います。

まず、湘南 T-SITE であるとか、ブックカフェをご存じだと思うのですが、本

とマルシェ、カフェはとても相性がいいんですね。さらに、移動式ライブラリーの車自体は今まだないんですけれども、BOOKCAR である移動式ライブラリーは必ず話題、評判となり、ブランドとなっていくでしょうということでございます。

まだスタートしたばかりですが、5・6月度に実施した移動式ライブラリー、私たちは「おいしいサステナ文庫」と名づけているんですけれども、こちらに実施のパネルもございます。皆さん熱心に読んでいただいて、地産地消について楽しくお話をさせていただき、また、皆さんインスタ等で私たちの活動を紹介いただきましたというようなことでございます。

この店のオーナーであるとかコミュニティは藤沢市内のどこにいらっしゃるかというのは見えているんですね。例えば無農薬を扱うカフェであるとか、発酵食品を中心に扱うようなカフェであるとかいろいろございます。この方たちは皆さんよいと判断したものを積極的に取り入れて情報を拡散するアーリーアダプター層と言えると思うんですけれども、そういった方から、言ってみれば藤沢産購入にさほどこだわらない一般層の方々がリード・牽引されて、藤沢市の地産地消ブームが起きる、起こす。これが我々本事業の目論見であり、戦略でございます。このあたりのことを左に書かせていただいております。この辺のムーブがブームとなっていくんだということでございます。

なぜ一般層が牽引されるのかということなんですが、こちらのパネルとこちらのパネルを見ていただきたいんですけど、さきの産業フェスタで地産地消のマルシェ等を展開するブースがありまして、そちらに参加をさせていただいたんです。藤沢市では9つのキーワードをもって地産地消と言っているんですが、どれがいいかなということで、こういった地産地消パネルで、皆さんにシールを貼っていただいたんです。来場された方たちは、皆さん一般の方ですけれども、ここに写しておりますように、地域の活性化であるとか、それから食文化の理解、こういったところに票が集まるといいですか、潜在的にそういった地産地消のファンが多いということがわかりました。これらから得られるリソースやブランドを使って、サステナブル活動、支援、マーケティング調査、ライブラリープロデュース受託、それから拠点事業というこの実装事業に向かっていきたいと考えております。

拠点事業というのは、申請書の段階では全然申し上げていなかったんですけれども、この1～2カ月でだんだん展開が出てきまして、現在、善行にNPO 法人さんわーくかぐやさんがございます。こことコラボいたしまして、地産地消と本をテーマにした複合

施設開設構想ということで、今、構想を協議中でございます。マルシェ、カフェ、ライブラリー、本の貸し出し、販売、就農体験など、コンセプトは地域貢献と社会福祉ということを考えています。

それから、発信の拠点事業ということでも考えさせていただいております。インターネットラジオの定例的な番組の担当ということでございます。

最後になりますが、申請書でもこういった形で目標数値を掲げさせていただいておりますけれども、申し上げたように、新たに拠点をつくるというような施策、それから2番の中で、施策の中に藤沢産品利用推進店への販売、売上増の調査というところの項目も加えてやらせていただくような形で、目標に加えさせていただきました。ありがとうございました。

(新實部会長) 発表が終わりました。

委員の方、ご質問をお願いいたします。

(坂井副委員長) 本を読むということと、それから地産地消が進むということ、その因果関係が1つよくわからなかったので、お話しいただけますでしょうか。

(BOOK で「食と学び」のコミュニティをつくる会) 先ほどとても親和性があるということをお願いしました。読書推進にももちろん効果がある活動なんですけれども、本を読ませることが我々の活動目的ではなくて、本の中身、先ほど来ご紹介をさせていただいているようなまちづくりであるとか、食の安全安心、食に関連してのブランディングづくりとか、そういった本を集めて、その中身を一つ一つご紹介をさせていただきながら、皆さんと会話させていただき、ワークショップであるとか、その先というようにところに及ぶ活動を主眼としております。本はきっかけというふうにご理解いただけるとありがたいなと思っています。

(関野委員) 元の申請からそうなんですが、収入の目当てにしているのが、企業協賛が中心になっていることがかなり気になります。今回のプレゼンでも記入されている内容を見ますと、大きい企業さんを上げていますけど、1社 50 万円の協賛は、交渉もかなり難しい内容になってくると思うんです。どちらかというと、これ以外の収益の手立てを検討されているか。もし企業協賛が得られなかったら、そういった場合の収益の手立てを考えている部分は何かございますでしょうか。

(BOOK で「食と学び」のコミュニティをつくる会) こちらでもうたっておりますように、拠点事業というところを新しく施策として加えさせていただいております。先ほど

も申し上げましたように、単純に移動式ライブラリーで活動していることに共鳴・協賛いただく企業目当てということではなくて、本の拠点事業ということで、販売とか貸し出し等の拠点を設けることで、リソース手段を見出していこうということで走り出しております。

(関野委員) わかりました。ちなみに、企業さん接触開始の段階ですということですが、現状では何かリアクションがありますかね。

(BOOK で「食と学び」のコミュニティをつくる会) パワポのほうでは説明できなかったのですが、資料 10 ページにもうたわせていただいているような企業名は、地元のゼネコンとか、食品関係の会社とかというようなところに関して、幾つか接触をさせていただいて、今そこそこ上の方とも少し会話ができる状態にはなっています。さっきおっしゃっていただいたように、年間 50 万円出すよというようなところには、もちろんまだ至っていないんですけれども、並行してそういう動きをさせていただいております。そういう意味では、八方動かなくてはいけないのはとても大変なんですけれども、意義がある事業かなと思っています。

(山岡委員長) 先ほどの坂井副委員長の質問とも関連することですが、実際にサステナ文庫というのはもうやられているわけじゃないですか。そこに来る方がワークショップであれば、お店の前で聞いてくださる方もいると思いますが、本は実際どのように利用されているのでしょうか。借りていかれるのか。その場で読んでいかれるのか。その文庫が実際どのように利用されているのかを教えてください。

(BOOK で「食と学び」のコミュニティをつくる会) パネル写真でも見ていただいたとおり、実施したところは今まだ4回ですけれども、軒先、店頭で読んでいただいたり、そういった方々と地産地消についてどんなふうにお考えですかというような話をさせていただいております。まだ本当にテストマーケティング的な段階ですけれども、皆さん意識が高いようなところに訪れてやっているということもあって、時間を決めてワークショップをやろうとか、テーマを決めて何か協議をしようとか、それについて吸い上げた声を、いずれは事業者や行政のほうにも声が届くような活動をしようという話にはなっています。

本の貸し出しそのものは、現在は、その日がもう終わりましたら、持って帰るという移動式文庫なんですけれども、先ほどお話ししたように、拠点をすることによって、貸し出しであったり、きょうはここで貸し出しするとか、おいしいサステナ文庫で、外

へ出るときは、その中で選ばれた本を持っていくとか、そういうような動きが出てくるようになるかなと思っております。

(山岡委員長) 続けての質問です。先ほど比較的意識の高い方なので、立ちどまって読んでおられる方もいますというお話がありました。質問にも書きましたが、意識の高い方であれば、こんな本があるんだと思って読むかもしれません、普通にお買い物に来た方は、そこに本があっても、特に気にならないんじゃないかなと思うんですけど、その辺はどうお考えですか。

(BOOK で「食と学び」のコミュニティをつくる会) 最初に申し上げたように、意識が高くないということで一般層という言い方をするならば、その方々がどこにいらっしゃるのかとか、どういうふうにすればその気になってもらえるのかというところが大変課題です。

今申し上げた意識が高い方といっても、決して何かぜいたくな店に行くような人たちではなくて、いいものはいいと言う方々です。なので、藤沢市内にいろんなコミュニティやお店が点在しているんですけれども、それをつないでいけば大きな声になるだろうと思いますし、その方々はみんなすごく積極的に発信もしていただくし、拡散もしていただくような方です。

そこに、一般の方々といっても、藤沢市民の一般の方々は、先ほどの産業フェスタのシールじゃないですけれども、みんなもともと潜在意識が高い。市民アンケートでも75%ぐらいの方が地産地消に対して興味があるとお答えになっているんです。それでいながら53%ぐらいの方々は、藤沢産じゃなくてもいい、熊本産のトマトでもいいと言っている方々が数字上では出ているんですけれども、そういったギャップを埋める活動は、私たちの言う意識の高い方々を起点にして広げていって、引っ張っていこう、そういう狙い、活動戦略でございます。

(大高委員) ざっくりした質問なんですけれども、どういう形になれば、事業として成功したというふうにお考えですか。

(BOOK で「食と学び」のコミュニティをつくる会) 儲かるというようなイメージの事業には見えないのかとは思いますが、今いろいろご質問もあったり、お答えしたようなマネタイズを使って、何とか継続的な実装につながればいいなということでございます。

(新實部会長) では、時間が過ぎましたので、これで終わりにさせていただきます。

BOOK で「食と学び」のコミュニティをつくる会―”おいしいサステナ文庫”でつながろうの皆さん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

(団体入れ替え)

③特定非営利活動法人育ち合い広場・てとてとて

(新實部会長) 続きまして、特定非営利活動法人育ち合い広場・てとてとての「てらこやわははプラス」について発表をお願いいたします。

(特定非営利活動法人育ち合い広場・てとてとて (以下、「てとてとて」)) お時間をとっていただき、ありがとうございます。きょうは藤沢の南大鋸地区から市民初の新しい提案をさせていただきたいと思います。本日、私、小川と。

(てとてとて) 島口です。よろしくお願いします。

(てとてとて) 子どもも大人も育ち合おう。地域の中で学び、育ち合える場づくりを行っています。育ち合い広場・てとてとて、よろしくお願いいたします。

活動内容は主に5つ行っております。座談会、地域の自然探検活動、子どもも大人もどなたでも自由に集える場を週に1度、フードパントリー活動、また学校が合わない子どもたちのための学び場を平日昼間、週4日開いています。

この中で、きょうの提案としましては、てらこやわはは、放課後の居場所活動をもとに広がっていきます。子どもも大人もどなたでも自由に集える場に、大人が自分の得意分野を発揮し、可能性を試せる場、学び育ち合える場、気軽に立ち寄れる場をプラスする。それがてらこやわははプラスです。

(てとてとて) それがどのような場所か。子どもが自由に過ごせる場。てらこやわははに、大人が自分の可能性に挑戦する場をプラスし、子どもも大人も新しいことに会う場としての要素も合わせよう。子どもを中心としながら、大人も生き生きと活躍できる多世代交流の場を目指します。

(てとてとて) 私たちが3年後に思い描く未来に向けて必要と思うことは、地域の子どもの地域で育てること、それには、「人・もの・カネ」が地域で回る仕組みを整える。子育て中の親も、自分の可能性を試せる場や、年長者はその経験を生かせる場をつくることで、異世代交流が生まれる。それにより、人と人との触れ合いの中で子どもたちが伸び伸びと育つ、支え合い、育ち合いの仕組みができます。

(てとてとて) その未来に向けて、理想と現実のギャップとは何か。共働きがふえ、隣近所のつき合いが希薄になり、子育てが孤立しがちな昨今、1人で夕飯を食べる子や、コンビニで夕飯を済ませる子も増加しています。成長期に大切にしたい「人との触れ合い」ができる場として子どもの居場所づくりを行ってきましたが、根本解決に至っていないように感じています。それはなぜでしょう。

(てとてとて) まず、一例として、競争社会の影響により、親の不安が解消されていないと考えます。子どもたちの成長を願う気持ちから、多くの習い事をさせたいと思う親も多く、金銭的な不安が生じております。それによって、働きに出ると決める方も少なくありません。子どものことを願った結果、子どもは孤食に陥ります。また、親にも気晴らしが必要ですが、ちょこっと働きたいと思っても、気軽に子どもを預けられる環境がなく、親子で煮詰まることも少なくありません。それにより、DVや虐待につながるおそれもあると考えています。

(てとてとて) そこで、私たちにできることは何だろうかと考えました。1つは、経済的不安について、子どもが習い事に行かずとも、地域の大人が学習支援などを行うことで、経済的負担を減らすことができるのではないのでしょうか。もう一つは、親の生きがいについて、自分の可能性を試し、輝ける場があれば、十人十色の得意分野で、子どももみずからも育ち合える環境ができるのではないのでしょうか。

(てとてとて) 親が地域で生き生きと活躍することで、時間にも心にも余裕が生まれます。子どもが寂しい気持ちで孤独に過ごすことも減るのではないのでしょうか。それはみんなの笑顔につながります。家庭円満になれば、地域が明るくなります。異世代交流が生まれ、子どもも大人も豊かに育ち合うことができるようになります。そして、みんなの喜びにつながると考えています。

(てとてとて) 詳細をご紹介します。

目的は、子育て中の親の不安解消と子どもの健全育成、異世代交流です。

内容は、地域で子どもたちを見守り、育ち合える環境を整え、世代を超えた交流の場づくりを行います。大人も子どもも得意分野を持ち寄り、学び合い、興味を持った子どもも気軽に参加できるようにします。学校にかわる学び場「まなびこ」に通う子どもたちも希望者は引き続き参加でき、公立学校へ通う子どもたちと交流できる場にします。

対象は、子育て中の親子を中心に、全ての市民、誰でもどうぞとなっています。場所は、大鋸市民の家または近くの第406号緑の広場を中心に。今後の展望としては、民

間の空き家シェアハウス、まちづくりハウスみろくじの利用も検討中です。

放課後の居場所活動てらこやわはは内で実施します。毎週木曜日午後3時から5時まで。

対象者は、居場所参加人数も含め、1回につき大人10名程度、子ども30名程度を想定しています。期間中の対象者については、画面資料をご参考になさってください。

対象者にとっては安心し、豊かに育ち合うことができ、心のゆとりが生まれ、それにより地域全体が明るく、優しくなります。

(てとてとて) 実施計画は、8月は準備期間、てらこやわははを行いながら準備を行います。9月は広報を中心に行います。10月から本格始動とします。

(てとてとて) 得意分野を発揮していただく「道標役の募集方法」は、「得意分野でチャレンジントリーシート」に各自記入してもらい、さまざまなジャンルの中から開催日を相談し、コーディネートします。現時点で寄せていただいている内容としましては、こちら(資料)に記載のとおり、多岐にわたります。

(てとてとて) ところで、「道標役ってどんな人？」これは資格を問わず、地域で得意分野をお持ちの方々をお願いしようと考えています。私たちは、資格がなくても経験があり、人に伝授できるものがあれば、お願いしたいと考えています。

(てとてとて) なぜ謝金が必要なのかというご質問ありました。これは活動を継続して行っていくためには、地域で回る仕組みづくりが重要であると考えています。謝金をお渡しできる仕組みをつくることで、ご本人のモチベーションを保つことができること。そして、ご本人の後ろに見えるご家族のご理解につながる事が大きいと考えています。幾らご本人に気持ちがあっても、ご家族の理解がなければ成り立ちません。ボランティアはお金にならないからとご家族に言われて活動から去っていく方もいるのが現状です。この流れは変えなければなりません。

(てとてとて) 2年目は、1年目につくり上げた基盤を軸に、参加する大人を会員制にして行いたいと考えています。3年目はこちらに記載したとおりです。

「想い」は最後に載せてあったんですけれども、これで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

(新實部会長) では、質問等ございますでしょうか。

(関野委員) 事前の質問でも得意分野を持ち寄って行う内容というのを質問させていただいたんですけれども、今回プレゼンテーションの中で出てきた内容として、子どもさん

が興味の薄そうな内容も結構まじっています。今までの子どもの居場所の重点というか、それでやってきたことに関して、こういう割と大人もというよりは、大人だけが興味を持ちそうなものが相応にまざってきている。子どもさんのほうが結構興味がない活動のときに、そこら辺は、居場所として来たのに、そういうことをやっているからどうしようかなというふうになってしまわないのかなというふうにプレゼンを見て不安になったんです。例えば同じ時間で参加したがない子が出てきたときに、どういった対応をするとかいう検討はされていますか。

(てとてとて) てらこやわははで、子どもが自由に集える場というのはそのまま行います。大人が大人のために学ぶ場として講師役として来ていただいて、大人が学んでいる姿を見て、子どもがやりたい子がいれば、子どももまざってそこに参加していいというスタイルが大人のメインの活動が多い理由です。その中に、学習支援とか、子どもメインの活動、こちらは自由に参加している子どもプラス、そこに参加したい、学習支援を利用したい子はそれも利用できる。そのような2つ仕立てというか、1つの場所だけど、同じ空間で、2つの場所があるみたいな感じで行おうと考えています。

(関野委員) そうすると、並行してやるような形になるという感じですね。

(てとてとて) はい、そうです。

(森田委員) てらこやわははが、わははプラスになるのかなとプレゼンで思ったんですけど、そうじゃないということなんですね。別の事業ということなんですね。

(てとてとて) てらこやわははにプラスで、同じ空間の中で別の場所があるという感じです。

(森田委員) 今回の申請のほうは、わははプラスのみの事業ということですね。

(てとてとて) はい、プラスの事業です。

(鍛地委員) 私も子育て中の親なので、とても共感するところがたくさんありました。そういった意味で、開催日ですが、毎週木曜日の15時から17時と書いてありまして、これからふやしていかれるということなんですけど、週末というのも視野には入れていらっしゃるんですか。

(てとてとて) 木曜日に行っている中で、週末に親子で参加できるようなイベント、夏祭りなどがそうなんですけれども、夏祭りなどを行っていますので、土日の企画も検討しております。

(鍛地委員) 単発とかそういう形ですか。

(てとてとて) 毎週というわけではなく、単発という形で土日を検討しております。

(山岡委員長) 今の質問に関連してなんですが、平日の3時から5時という、多くの方は仕事をされているので、道標役で来られる大人の方というのは少し限られるのではないかと思います。例えばリタイアをされている世代の方か、あるいは平日に休みのお仕事をされている方とかになると思います。そのような理解でよろしいですか。

(てとてとて) 私たち子育てしてきている中で、同じ子育て中の母がいろいろ資格を持っていたり、得意分野を持っているという親御さんもたくさんいられるので、子どもを育てながらも、自分の得意分野を発揮できる場という意味で、まずは子育て世代の親御さんを中心にお声がけをさせていただいております。

(山岡委員長) 平日に仕事をしていない子育て世代の方ということですか。

(てとてとて) そうです。先ほども母乳育児のお話もありましたけれども、母乳育児で育児中の親御さんですとか、お仕事をせずに、子どもさんとできるだけ寄り添いたいというお考えの親御さんですとか、そのような方にお声がけをさせていただいております。

(大場委員) 大人に対するスクールの活動を今回やるということですがけれども、お子さんに対する活動に関してはお金を取らないのかなと思ったんです。大人が対象のものというのは会費を取るということなのか。「参加費」と書いてあるのはそういうことでしょうか。

(てとてとて) そうです。参加する大人の方は、1回大体500円を参加費と考えております。あと道標役の方にも、登録料みたいな形で、年間1000円から3000円ぐらいを今考えているんですけれども、一応いただくような形で回していけないかなと考えております。

(大場委員) そうしますと、今回助成金を使って謝金を払うというふうになっておりますけれども、行く行くは、その中でのお金の回しにしていこうという感じはあるんでしょうか。

(てとてとて) それを夢見ています。

(新實部会長) 質問なんですが、質問票にも書かせていただいたんですけれども、道標役の人に謝金を払われるではないですか。そういう謝金の中には道標役の方たちが用意された材料費もあると思うんですね。そういうのも込み込みで謝金という形で渡されるんですか。

(てとてとて) 材料費につきましては、道標役の方にお任せと思っております。材料費が

かからないものもあれば、とてもかかるものもあると思いますので、とてもかかる場合には、もしかしたらご本人の負担を少しいただくという形も、講師の道標役の方によってはあるかもしれないと考えています。

(新實部会長) あと、講座の内容によっては、近くにいる子どもたちが安全ではないかもしれないような器具を使ったものとかがあるじゃないですか。同じ空間でそういうことをされたときに、その安全性に対して不安はないのか。解消される手立てはしっかりされておられますか。

(てとてとて) 会場となる大鋸市民の家なんですけど、和室が3つの部屋に分かれていて、ふすまを閉じると、一応閉じたりすることができますので、あまり危ない場合は、隣のお部屋にお母さんいるよという形で、子どもたちの遊べる場と1回分けてみたりとすることができるかなとは考えております。

(新實部会長) できるだけ大人が学ぶ姿を間近に見せてあげたいので、ふすまなしで頑張ってください。

(大高委員) 1点だけ。今の部会長のご質問と非常に似通っているんですけども、これを事業化して運営していく上での想定するリスクというのは何かございますでしょうか。例えば今お話があったように、何か事故とかあった場合はどうするかとか、あるいは人が集まらない場合はどうするかとか、多分いろいろリスクがあると思うんですけども、これを事業化していく上での想定リスクは何かお考えがあるのかなと思って伺いました。

(てとてとて) 今お話しされたように、やはりけがですとか、あとは事業化するに当たって、収益をだんだん得ていかなきゃいけないと思うんですけども、それが得られない場合はどうするかとかということがあると思います。場合によっては、この活動がうまく軌道に乗っていけば、例えば申し込みをして、ある程度は申し込みをもらうとか、申し込みをして実施ができなかった場合のキャンセル料とか、そういったものも考えるようにすることで、少しそういうリスクを減らしていくことはできるのかなとは思いますが。

あと、けがとかに関しては、保険の適用であるとか、そういうものを準備しておくことで、少し軽減できるかなとは思いますが。

(てとてとて) もう一つ、子どもを見守る手をふやすという意味で、保育士さんをお願いしようと考えておりますので、安全面では人の目をふやすということで考えております。

(新實部会長) 時間になりましたので、特定非営利活動法人育ち合い広場・てとてとての皆さん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

(団体入れ替え)

4. 辻堂砂山子ども食堂

(新實部会長) 続きまして、辻堂砂山子ども食堂の「子ども食堂事業」について発表をお願いいたします。

(辻堂砂山子ども食堂) 辻堂砂山子ども食堂、代表の内本です。よろしくお願いいたします。

パワーポイントの説明ですが、委員の方々からいろいろご質問がありましたので、概要説明をささっとスピーディーにやりまして、質問の回答に関して時間をとって説明していきたいと思っております。

まず、目的と未来に関してです。

目的は、困窮している家庭の子どもへの無料での食事提供、それから、両親が共働きもしくはシングルマザー、シングルファーザーというところで、孤食といって1人で御飯を食べることが多い子どもが、友達や、運営スタッフ・大人たちと一緒にしゃべりをしながら食事をする、居場所をつくる。家事支援になる。そういったところを目的にしております。

あと、資料2ページの最後の行ですが、「孤独な子どもたちや親世代を社会全体が見守り、育む未来にしたい。孤独な人が減っていく社会にする」というところが、3年後の未来に向けた目的になります。

次に、開催概要です。毎月1回開催しております。開催場所は藤沢市の辻堂砂山市民の家です。辻堂市民センターの裏側のような場所にあります。

特徴としましては、この市民の家には、高砂小学校と浜見小学校の2校分の学童保育クラブがあるということと、幼児、小学生、中学生、誰もが自由に遊ぶことができる児童館という施設があることです。

それから、参加人数は50名ぐらいを目安とする。会費ですが、子どもは無料にして、大人からは200円の寄附をいただくという形にしています。

この活動は4月から始めていまして、今のところの実績としては、4月、29名、5

月、14名、6月、35名で、30名前後の参加人数を集めている状況です。

次に、「現実とミライのギャップを埋めるために」です。こちらに関しては、単純な目的として、子ども食堂という形で、食事提供、学習支援、それから一緒にゲームをするといったことで、「子どもの居場所」づくり、居心地のいい場所をつくれればいいと考えております。

あと、「目指す成果目標・効果」です。委員の方からのご指摘もありまして、月1回、50名の参加というところなんですけれども、リピート参加が多くなることが想定されますので、200名程度の子ども食堂を中心としたコミュニティができればいいかなと考えております。そうしたことによって、困窮した子ども、孤独な子どもを地域が救っていくセーフティーネットの一部になればいいかなと考えます。

次に、収支予算ですが、主な支出は、原材料費、案内ビラの印刷、ボランティアの交通費、会場の使用料、あとボランティア行事保険に入ったりしております。それで、1回当たりの支出が1万7600円です。収入としては、大人来場者が寄附を寄せていただきますので、それを2600円と見ています。その差額を今回のミライカナエル活動サポート事業の補助金で補えればいいと考えております。

これからは、委員の方からのご質問に関する回答ということでご説明をまいります。

事業効果の把握というところですよ。把握に関しては、参加者人数と、その内訳としてリピートでどれぐらい参加してもらっているか、また新規でどれぐらい来てもらっているかという分類でコミュニティができると想定していますので、その人数を計測することによって、事業効果の把握をしたいと考えております。

次に、収支予算の摘要欄の原材料費ですけれども、これは間違っておりましたので、1回1万円に訂正させていただきます。

収支予算数字に関しては、原材料費9000円から1万円に1000円ふえますので、案内ビラの予算を減額して調整して、申請補助金額と総事業費は変更なしという形にしたいと思います。

次に、対象者の規模というご質問ですが、小学校2校分、それから、書いてないんですが、中学校1校分を足すと、子どもの数としては1100名で、両親が2000名ぐらいと考えております。あと、近隣の主に高齢者の方になると思うんですけれども、来られる方2000名ということで、この対象者の方の一部が参加されることを想定しており

ます。

運営側の人材確保ということで、ご心配のご意見があったんですけども、団体会員が現在5名、そこからの知人、友人、それから民生委員のOBの方から割と支援をいただいています、ここのネットワークで人を集めるのと、あとは藤沢市のボランティアサイトのチーム FUJISAWA で募集をするということで確保していきたいと考えております。

次に、藤沢ブランドの農産物とのコラボですが、現状は、藤沢市のわくわく広場というモルフィルにある野菜の市場のところで、安価もしくは無償で提供していただくことを考えています。

あと、学校への協力というところでは、現在、学校前での案内ビラの配布を2回やっています、それに関しては校長さんの了解を得てやっております。

食品衛生の分野に関しては、食品衛生責任者を1名配置して、藤沢市の保健所に対して集団給食事業の届け出を行っています。

あとは、ボランティア調理スタッフへの食中毒に関する教育を行っているところです。

地域の子どもの現状というところでは、この市民の家に学童保育があるというところと、自由に遊べる児童館がある。それから、辻堂青少年会館では、小学生に対して学習・料理・芸術というところの支援をやっていますので、非常に充実したところではないかと考えております。

時間になりましたので、これで終わらせていただきます。

(新實部会長) 発表が終わりました。

委員の方、ご質問はありますか。

(大場委員) 今まで3回やっていただいている、その手応えと、もう一つ、今まだ助成金とか出ていない状態ですけども、費用面はどのように賄いましたでしょうか。教えていただければと思います。

(辻堂砂山子ども食堂) 費用面ですが、補助金というのは当初は考えていなくて、会員たちのいわゆる自己負担といいますか、持ち出しということで考えております。

ただ、今いろいろと民間のオリックス財団ですとか、損保ジャパン、例えばコンビニさんとかでも支援をするという動きがあります。新しい話としては、1年以上経過した子ども食堂に対してなんですけれども、子ども家庭庁が補助金を出すというような試

みもありますので、そういうものの何かしらに引っかかってくるかなというふうには考えております。

あと、今は子どもさんと、子どもの保護者だけを呼ぶという形にしているんですけれども、ミライカナエル活動サポート事業になった場合は、大人1人でも来てくださいということをやろうと思っています。そういう場合は寄附がふえるという形になって、それでやりくりをしていこうと思います。

あと、もうちょっと言えば、お米と野菜に関しては、それを提供してくれるところをこれから探していきますので、これも何かしら寄附をしていただけるのではないかと考えております。

(大場委員) やってみて、4月、5月、6月の手応えというか。

(辻堂砂山子ども食堂) 一番大きなポイントとしては、小学生がメインなんですけれども、お友達と一緒に来るということで、お友達を呼んできて人数がふえているという傾向はあります。あとは、親御さんたちの意見としては、親御さんがついてこないケースが多いです。きょうもメールをもらったんですが、「私は行けないので、子ども1人で行かせます。私は安心して仕事に行けます」とか、そういうようなお話をもらったりはしています。

(新實部会長) 「回答続き④」の説明をしていただいたということです。

(鍛地委員) 場所的に恐らく市境になられるかなとは思っていますので。

(辻堂砂山子ども食堂) 茅ヶ崎に近いですね。

(鍛地委員) そうですね。なので、もしかして茅ヶ崎の方もいらっしゃるという状況はあるのでしょうか。

(辻堂砂山子ども食堂) 個人情報ですが、食中毒というリスクがあるので、氏名と電話番号は聞くんですね。でも、大概ケータイの番号なものですから、その判断はつかないところなんです。ですから、茅ヶ崎市の方が来られるかもしれないんですけれども、排除はできないということにはなってしまうと思います。

(鍛地委員) 別に排除したほうがいいのかというわけではないですけど、今回藤沢市のことなので、あまりメインには語られないのかなと思っております。

そういった意味で、SNS で広報されるということで、非常に有効かなと思っているんですけれども、私のなりわいのところでもありますので、SNS をどのようにされるご予定なのか、気になりましたので、お知らせください。

(辻堂砂山子ども食堂) 以前にやったんですけれども、まず、フェイスブックのほうでは、辻堂交流会というグループがありまして、そこに一度投稿して、お知らせをした形をとっています。

あとは、インスタグラムを開設しています。こういう予定でやりますというのと、あと報告というので、インスタグラムで投稿する形にしています。今の若いお母さん方は、メールとか電話とかは、面倒なのか苦手なのかかわからないですけれども、そのやりとりは嫌で、LINE とか、あとはインスタの DM とかがやっぱりいいみたいなんです。ですから、インスタの DM で、「何人行きますからよろしくお願いします」というようなやりとりは今始まっています。

(鍛地委員) いろんな調査で、やはり子育て世代の特にお母さんたちは、インスタグラムをメインで使われているというのは明確になっているので、ぜひ続けていかれるとよいのかなと思います。

(水戸委員) 4月、5月、6月ともう既にやっていらして、29名、14名、35名と参加者も結構いらしているかなと思うんですが、このときの運営側の人数はどのくらいだったかなという点。

もう一つ、これだけのお子さんの参加者があると、最初に課題に上げていらっしゃる困窮だとか、孤立だとか、そういう課題を抱えているような参加者がいることにもう既に気づいていらっしゃるのか。また、そういうお子さんを感じたときに、どこかに相談するような機関とか、何かつながりがあるかどうか、お伺いできればと思います。

(辻堂砂山子ども食堂) まず、ボランティア人数ですが、1回目は13名でした。2回目と3回目は8名ぐらいで運用しています。

質問の答えとはちょっと違うんですけれども、調理して、子どもの食事の見守りをして、かつゲームを一緒にやるとなると、やっぱり13名ぐらいは確保することが必要なので、その辺、ボランティアをふやさなきゃいけないなというふうに今課題と感じているところです。

あと、困窮というところに関してですが、まだ子どもと深いコミュニケーションができていないわけではないんですけれども、2家族ぐらいは、ちょっと心配だなと見えるようなところがあります。そういう方がもう少し明確になったら、地域の辻堂地区の社会福祉士さんとは面識があって、何かあったら相談するということにはなっていると、あとは民生委員さんともつながりがありますので、社会福祉士さんか民生委員さんに相

談をすることになると思います。

(新實部会長) では、終了とさせていただきます。辻堂砂山子ども食堂の方、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

(団体入れ替え)

⑤Will CONNECT

(新實部会長) 続きまして、Will CONNECT の「地域と共につくる宿」について発表をお願いいたします。この団体はユース枠での申請になります。

(Will CONNECT) こんにちは。

はじめまして、Will CONNECT です。きょうは藤沢市の未来に対する思いを届けに来ました。僕は横森と申します。

(Will CONNECT) 岡西です。

(Will CONNECT) 尾崎です。よろしくお願いします。

私たちは、慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス、藤沢市の遠藤地域にある学校に通っています。彼は中高時代からなので 10 年くらい、彼女は今、院生なので 5 年くらい、私は大学 3 年生なので 3 年目なのですが、ずっと遠藤に通っています。ですが、学校がある遠藤だったり、打戻だったりという周辺地域のことをほとんど知りません。何でなんだろうと考えてみたんです。

現状の分析でわかったことが、SFC に通っている学生と学校のある周辺地域とのかかわりがほとんどないんです。遠藤や打戻にはこんなにたくさんのコミュニティがありますが、そこには分断があることがわかりました。

「理想のミライ」について話します。こういったたくさんのコミュニティをつなぎ合わせる多様な人々の交流が生まれる場所をつくりたいです。遠藤における人や自然や文化の魅力に、地域内だけでなく、外からも多様な属性の人が触れる機会をふやしたいと考えています。

なぜこういった理想と現状にギャップがあるのでしょうか。2つの理由があると考えています。この2つです。

1つ目が、コミュニティの限定性です。先ほども申し上げたとおり、このようなすてきなコミュニティがたくさんあります。ですが、ここには個人がほかの属性とかかわ

れる場所がとても少ないんです。

2つ目、交流の非継続性について。単発的なイベントはあったりするんですが、人と人とのつながりをつなぎとめる場所が不足していると考えています。

(Will CONNECT) では、どうしたらこのギャップは埋まるのでしょうか。私たちは多様な交流が生まれる場としてゲストハウスをつくりたいと思います。先ほどお話しさせていただいた現状の問題を解決するために、この2つのポイントを押さえてやっていきたいと思っています。

なぜゲストハウスなのか。それはゲストハウスが交流の場として常に存在できるからだと考えています。地域の人や地元の学生たちと一緒にゲストハウスをつくることによって、そこを交流が生まれる場にしていきたいと思っています。

コンセプトは「地域と共につくる宿」です。地域の人と一緒につくる。また、学生がずっとかかわっていけるような仕組みをつくることによって、持続的に運営していけるのではないかと考えています。

これまでにやってきたことを話させていただきます。私たち Will CONNECT は、「実践」、「研究」、「発信」の3つの柱を立てて活動してきました。特に「研究」では、求心力のあるゲストハウスのつくり方と、空き家を活用した地域の間づくりの研究を行ってきました。実際に全国 20 カ所を訪れて、いい実践例を見て、その場のつくり手である人にインタビューを行って、調査をしてきました。

その結果、まず初めは、地域に入っていくこと、それから、一緒にやっていく仲間を見つけること、さらに、既にその地域で何かをやっている人たちと連携していくこと、この3つが大事だということがわかったので、それらを目標として活動してきました。

「地域に入る」においては、地元の農家さんたちや神社とか、その場で研究している人たちとかかわって関係性をつくってきました。これが実際の写真です。

そんな中、「ここでゲストハウスをしたい！」と思えるようなすてきな空き家に出会うことができました。現状はこんな感じで、すぐにゲストハウスができる状態ではないので、地域の人や地元の学生と一緒に改装していったりして、交流が生まれる場をつくっていききたいと考えています。

(Will CONNECT) これからやることについてお話しします。空き家の修繕とコミュニティの形成を目的としてイベントを企画します。イベントは午前中からやって、お昼御飯をみんなで食べたりして、開催していくうちに、こういうのが得意みたいな人たちの

得意を生かした施工の仕方をしていきたいと思います。地域の人々が施工にかかわることと自分ごと化して、場にかかわり続けたいと思うようになるのと、学生にとっても地域との交流の場になることを目指しています。

今後のスケジュールについて書いています。オレンジ色が資金調達のクラウドファンディングのための活動です。実はゲストハウスサミットといって、全国のオーナーを集めるサミットの企画などにもかかわらせていただいています。青色が地域とつながりをつくるための活動です。緑色がミライカナエル活動サポート事業の助成金を実際に使用させていただくことに関するイベントです。

実際の助成金の使い方についてもう少し見ていきます。大きく分けて2つ、「古民家周りの整備」と「古民家の改装」について考えています。

これが今実際の古民家の周りです。今、古民家の周りに木が茂っていて非常に危ないということです。先に内装をやってしまうと危ないので、まずはこの木にアプローチします。

こちらが木の周りのものを整えるための道具で、こちらが内装のための工具です。工具におよそ15万円使わせていただく予定です。古民家の改装にかかる材料などはホームセンターなどで調達して、5万円使わせていただく予定です。

こちらが事業全体での収入支出の様子です。

最後に、僕たちは多様な人々の交流が生まれるゲストハウスをつくることで、ゲストハウスを拠点に、遠藤だったり、打戻だったり、藤沢全体に対して、「まちを面白くすること」に対して活動的なミライをつくっていきたいと思います。

まだまだ未熟ですが、皆さん、どうかお力添えください。

ご清聴ありがとうございました。

(新實部会長) 発表が終わりました。

委員の方、ご質問ありますでしょうか。お願いいたします。

(関野委員) 事前には空き家の当てがあるのかというところを聞かせていただきましたが、その当てがあったようで、ちょっと安心しています。

質問としては、いろんな人が集まる場として、今の空き家の条件的にというところなんですけれども、アクセスとかそこら辺、周りの人の交通手段とか、そういう面で、現状の場所で大丈夫そうかどうか、伺わせていただければと思います。

(Will CONNECT) アクセスについては、学校の近くに宇都母知神社という神社があっ

て、そちらのバス停から歩いて5～6分くらいのところにあります。質問でもいただいていたように、観光地とは言えないところで宿をやるのはどうなんだということですが、実際に研究で全国を回ってくれていて、そういう場所にいかにも求心力を持たせる宿をつくるかの研究を僕たちなりに自信を持って進めているので、そういった知見を生かして実現していきたいと思っています。

(関野委員) わかりました。どちらかというと、この企画でいったときに、地元の人の来やすさというのが相応に大切になると思います。ここら辺だと、車で来たりすることをご希望される方が結構多いと思いますので、そういったところも考慮してもらえればと思います。

(森田委員) 今のお答えに関連してなんですけれども、自信を持ってやりたいというところの自信のほどというか、今の知見をもう少し教えてください。

(Will CONNECT) 人がそこに来るのかどうかということに対する自信に関しては……。

(森田委員) 要は、ゲストハウスをつくったけれども人が来ないんじゃないかというのは心配しています。それに対して大丈夫だ、知見があるとおっしゃっていたので、その辺どんな知見があるのか教えてください。

(Will CONNECT) 実際にそういうちょっと人が集まりづらい場所にあるゲストハウスを幾つも訪れて、こういう場所にどうやって人が集まるようにされていますかというのをオーナーさんにインタビューをして、そこでわかったことは、つくる前から応援してくれる人とか、ファンをつくるんだという話をされていました。

そうすることによって、実際につくるとなったときに協力してくれる人とか、運営を始めたときに訪れてくれる人はもう既にできているからと教えていただいたので、要はいろんなところを回っていく中で、毎回この話をして、毎回 SNS を交換して、応援してもらう人をいっぱいつくっていています。

あとは、発信も事業の1つでしているので、今活動している様子をいろんなところで発信していくと、ファンとか応援してくれる方をつくっている状態になるので、実際に始めたときにもそういった方々が来てくれるのではないかなと思っています。

あと、実際に始めていくと、ゲストハウスは結構クチコミで広がっていくような形が多いので、始めた人たちにいろいろ発信して、一緒にやっていく中で、来てくれた人に発信を手伝ってもらったりして、より多くの人に知ってもらえるようにできたらなと思っています。

(森田委員) ほかをたくさん回っていらっしゃったということですが、その実際のゲストハウスさんは採算が合っているのでしょうか。うまくいってない例とかを知らんになったりはしなかったんですか。

(Will CONNECT) どうやってうまくお金を回していかれているんですかというような質問も毎回しています。その中でいろんな方法があったんですが、御飯を出したりして、別の事業をやって回しているパターンもあれば、そもそもそこにそんなにお金がかからないようにして、本当に少ない人数が来てくれるだけで回せるようにしているというのもある。私たちはその後半をまず初めは目指していきたいなと思っています。そもそも毎月かかるお金を減らして、来てくれる人をふやしていくという形にすると、最低限回すことはできるので、そちらを目指しています。

(水戸委員) 2つほど。地域に入るということは最初のきっかけで必要だとおっしゃっていましたが、今もう既に地域のいろいろなものを少しピックアップされています。今、応援してくれる地域の人のお顔が何人ぐらい浮かぶか。あと、年齢層が高い方が多いのか、働いている方が比較的多いのか、それとも皆様と同世代が多いのか、そこをお伺いしたいです。

それと、既にここが使えるという場所を見つけていらっしゃいますが、今そこには費用はもうかかっているのか、かかってないのか、ちょっとわからなかったもので、そこをお伺いできればと思います。お願いいたします。

(Will CONNECT) すごくすてきな質問だなと思って、ありがとうございます。これは実は地域の人々の顔が思い浮かばなかった状態から始まっていて、5月、6月に入っていくにつれて、実際に神社の田植えとかに参加することによって、地元の農家さんだったり、年代的には結構ご年配の方とかかわらせてもらったり、地元でのみやじ豚さんとか、企業の方たちとかかわらせていただいて、商工会のイベントとかに呼んでいただけるようになったりして、世代がすごく限定的ではないというのが僕たちの強みかなと思います。地域とかかわりのあるような若者のコミュニティとか、農家さんであったり、最前線で活躍されているような年代の方たちの顔が、今では30人ぐらい、パッと思い浮かぶくらいにはなっています。

2つ目の質問で、現状の空き家に対する費用はかかっていません。実際に施工を始めるときに契約をしようという話になっています。口頭での合意はできているんですけど、まずは木とか、改装に当たるとき、そのアクションを起こすときに、書面による契

て発表をお願いいたします。

(湘南多文化ガーデン) 「多文化の親子への就学・編入サポート」の湘南多文化ガーデンの加藤です。それから代表の白頭と、市川ジョバンニです。よろしくお願いいたします。

昨年度は「藤沢市プレスクール教室」でしたが、今年度こちらの名前に改名しまして、NPO 法人化を目指しております。

私たちの目的は、多文化の子どもが安心して学校生活がスタート、継続できるようにサポートすることです。藤沢市の外国籍住民の人口は、2年前の 6000 人台から、今年度は 8000 人台とふえ続けています。日本語指導を受けている児童生徒の数も、昨年度は 200 人前後でしたが、今年度は 300 名強にふえています。市内の小中学生は約 3 万人いますので、1%に当たります。100 名増加しましたが、きょうだいがいる場合は、保護者は不要と判断することも考えられ、私どもの対象者はそれよりは少ないかなと考えております。

もう一つの目標は、支援者や保育・教育関係者と課題共有・連携することです。

このような4つの事業を展開していきたいと考えております。

まず、昨年度のスタート支援コースの実施事業の内容と課題です。

1つ目、小中学校に入学・編入予定の多文化の子どもと保護者のためのプレクラスを実施しました。詳しくはこちらをごらんいただきたいと思います。

課題は、より多くの保護者に情報と有用性が伝わるように広報・周知を工夫すること。また、子どものグループは、年齢または母語によってグループを分けたので、内容や人員配置が大変複雑になりました。また、保護者には小中学校の情報を両方提供しましたので、情報過多であったという反省があります。

2つ目、プレクラス報告会を開きました。

課題は、対象者、目的を明確にした上での広報が必要だということです。目的はネットワークづくりでしたので、今後は行政関係の方なども来られるような日時設定を考えていきたいと思っております。

1つ目の事業の説明です。継続サポートですが、対象は、プレスクールなどに参加した多文化の子どもとその保護者中心にアプローチしますが、藤沢市内の小中学校に在籍する多文化の子どもとその保護者などにも門戸を開きたいと思っております。

内容はこのような形です。保護者にはこのような形の内容を考えております。

特に保護者に対しては、日本語指導員、国際理解教育協力員などで多言語対応を考

えておりますが、対応できない場合は翻訳アプリの使用も考えております。しかし、学校用語は特殊でして、やはり誤用、誤訳を避けられないので、できるだけ避けたいとは考えております。

また、既に藤沢市教育委員会に後援名義申請済みでして、教育委員会を通して多言語音声 2 次元コードつきのチラシを案内する予定です。

また、インスタグラム、フェイスブックを通した多言語による広報も展開予定です。

研修会・連絡会ですが、外部講師による講義をするとともに、藤沢市でのプレスクール・プレクラスの報告を、こちらの方をターゲットに展開を考えております。

それによって多文化の親子への支援に関する理解、そして情報共有、特にサポートが必要な家庭への情報を、保育課の方、教育委員会の方が把握されていますので、そこへのこちらからの情報提供を要請したいと考えています。そういった中で連携を深めていくことを目指しております。

就学前・編入前サポートですが、小学校に入学予定の多文化の子どもとその保護者などはプレスクール、小中学校に編入予定、つまり 2 年生以上の子どもなどはプレクラスと分けて展開していきます。

プレスクールは午前中に、主に小学校のことを中心にして、プレクラスは午後に、参加者に応じて小中学校の情報や進学について述べたいと思っております。

子どもに対してですが、プレスクールの子どもたちは、母国でも学校に行ったことがなくて、学校が初めてですので、学校とはどんなところか、そして楽しいところだということを理解してほしいと思っています。プレクラスは、日本の学校との違いや共通点等を生かした指導を目指したいと考えています。どちらも母語や母文化の有用性をしっかり伝えたいと考えております。

そしてガイドブックですが、今まで母語の大切さや教育資金などについては資料として添付していましたが、1 冊にまとめ、改定していく予定ですし、前年度に参加者が何名かいたネパール語の翻訳も考えております。

成果の目標と効果の把握ですが、まず、研修会・連絡会に関しては、昨年度、参加が少なかった関係部署の担当者が参加されるかどうか、そしてプレクラス・プレスクールの協働への具体的な提言を目指したいと考えております。それによって、定期的な連絡会の開催、ネットワークづくりを進めていきたいです。

そして、夏休みサポートなどでは、目標として多文化の子どもと保護者の参加を、

延べ50名を目指したい。去年は37名でした。また、アンケートや継続サポートによって不安解消の確認をしたいです。また、SNSなどでフォロワーをふやし、多文化の子どもたちみんなが前向きに学校生活を送ることを考えております。

「今後の展望」は、こちら（パワーポイント）の3つを考えております。

以上です。

（新實部会長）では、今後の展望をちらりと見ながら、各委員、質問をお願いいたします。

（坂井副委員長）対象の子どもたちがかなりふえているのがわかりました。最後のところ、

「今後の展望」です。「今後」というのは今年度のことでしょうか。それとも次年度以降のことなのでしょうか。

（湘南多文化ガーデン）次年度以降のことを意識して書きましたが、もちろん支援者を対象とした研修事業で、講師派遣の依頼が実際に去年ありましたので、今年度もそういった依頼があれば受けていきたいと考えております。

また、メンバーもふえてきましたので、実際に自主財源の確保も進んでいく予定です。ワークショップはまだ予定はないんですけれども、次年度以降、展開していきたいと考えております。

（関野委員）申請書でいただいた部分の9番に「委託事業化」という言葉が出てくるのですが、かなり公益性が高いことをされているので、そういったことを検討されるのも自然だと思うのですが、こういったお話は、藤沢市に担当となる課がありますが、そういうところと進めているのかというのが1点です。

全然違う話なのですけれども、参加者層に関して、この場合、両親が日本語をしゃべれない、あるいはあまりしゃべれないというところが対象かと思います。そういう方たちと接する中で、経済状況とか別の課題が事業を進める中で見えてきたりするのか、それを伺いたいと思います。

（湘南多文化ガーデン）委託事業化についてですが、具体的にはまだ何も、話を進めたり、こちらから提案したりとかいうことは全くないのですが、教育委員会と連絡を密にしていまして、時折々に、将来的には一緒にですとか、他の自治体ではこのようにしていますというようなお話を少しずつして、今後につなげていければという考えでおります。

（湘南多文化ガーデン）藤沢市の中で外国人の母親に対する居場所がまだなかなかできていないところがあると思います。私たちはこの中で外国人の保護者にも、相談できる方、悩みとか、居場所としてもしていきたいと思っております。

(湘南多文化ガーデン) プレスクール、プレクラスのほうで経済的に困難な家庭のための補助金、案内はしているのですが、そういう案内を聞いて、熱心に申請される方はいらっしゃいます。

(湘南多文化ガーデン) 就学支援金の必要な家庭の記入などのサポートはしますが、大変多いとかそういったことまではまだ把握はし切れておりません。

(湘南多文化ガーデン) もちろん、その中で学校を初めての方で、ランドセルとか教材のものをそろえていない方もいらっしゃるのです。そのときに、こちらから案内できるような形で。それだけではなく、いろんなことの中で案内しなきゃいけないところもあるので、私たちが身近にこういう教育委員会と仕事しているので、情報とかそういうことがたくさん入ってくるので、その案内もできるような形でしていきたいと思っております。

(関野委員) 言語的にそういうことを遠慮なく聞けるというのはかなり貴重な機会だと思いますので、公的な支援につなげる必要があったりしたらつなげるとか、そういうところは配慮していただけると、すごくいい企画になると思います。

(森田委員) プレゼンの一番最後で、定期的な連絡会の開催などを予定されているということでしたけれども、こういった課題は藤沢市内だけではなく、いろいろなところであると思うのです。この連絡会はどういった方を対象に、もう既にあるのか。あるいは目指しているのか。その辺の状況を教えてください。

(湘南多文化ガーデン) 藤沢市にはないですね。日本語指導員の連絡会などはあるんですけれども、教育委員会と保育課のつながりもありません。ないとは言いきれないんですけれども、こういった会議で共有する場はありませんし、人権男女共同平和国際課も、大人、地域の日本語教室の運営などにかかわっていると思うんですけれども、そこの同じ場で話し合う場は今のところないと思われます。また、大和市などの連絡会に出席している国際教室の先生方もいますし、個人レベルのものはあるんですけれども、藤沢市内、または近隣との連絡会はないので、まずは藤沢市内で固め、必要があれば近隣のニーズはあると思います。

実際に、こういったNPOを立ち上げるという話をする、茅ヶ崎関係の支援をされているメンバーもいて、その関係ですごく興味があるという方の声も何人かからかかっております。隣の横浜市または大和市と比べると、多い割にはすごく連携が薄いという実感はございます。

(森田委員) 皆さんが目指していらっしゃる連絡会は、どんなメンバーシップで考えていらっしゃいますか。

(湘南多文化ガーデン) 5枚目の連絡会に挙げました教育委員会、人権男女共同平和国際課、保育課、放課後児童クラブ、そして実際に日本語指導にかかわっている日本語指導員や国際教室関係者などを考えておりますが、門戸を閉める気もないといえますか、メンバーが広がりを見せているので、その関係で参加したいということがあれば、定期的に何回やるかとか、そこまでは考えておりませんが、広げていきたいと考えております。

(新實部会長) 研修会などの対象者は、もしかすると藤沢市の広報で全域の方にお知らせすると、今活動なさっていない方でも、したいと思っている潜在的な方の掘り起こしにもなりますし、そういう方たちがまたサポーターになったり、スタッフのメンバーになったりもするので、できましたら研修会は広くしていただけるとありがたいなと思いました。

(湘南多文化ガーデン) 実は去年それを考えて土日に行ったのですが、それによって行政の方が来てくれなかったというのがあるので、平日開催を考えております。平日でも午後とか、ちょっとわからないですが、もちろん、地域の方にもぜひ参加いただきたいと考えております。

(新實部会長) では、時間になりましたので、湘南多文化ガーデンの皆さん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

(団体入れ替え)

②湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会

(新實部会長) 続きまして、湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会の「湘南プログラム」について発表をお願いいたします。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会 (以下、「未来創造事業実行委員会」)) 皆さん、こんにちは。私たちは湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会という団体の者です。きょうはインドネシアからお客さんが来ておられます。アグネスさんです。日本語検定1級ですので、大丈夫ですかね。

私たちの団体は、地域の日本人が7人、インドネシアの大学の日本語学科の先生が7人、合わせて14人のメンバーの実行委員です。3つプログラムをやっています、

きょうお願いするのは最初の湘南プログラムです。あと2つ、平和交流プログラムと、絵本で子どもたちの世界を広げるプログラムをやっています。今回は湘南プログラムだけを説明すればいいんですが、我々の団体の状況とかつながりがありますので、バーツと写真だけになりますけれども、移っていきたいと思います。

我々の活動の目的は平和で持続可能な社会の創造です。平和で持続可能な社会の創造に寄与するということです。

1番目の湘南プログラムは、平和には異なる国や異なる民族が互いに理解し合うことがその根本であると考えまして、インドネシアの日本語学科の学生と、藤沢の中学生の交流をしています。

これは藤ヶ岡中学校で中学生と交流した（写真）。

これは長後中学校で交流した写真。

これは御所見中学校で交流している写真です。

これは多分、村岡中学校だと思います。左下にいるのがインドネシア人です。

これはどこかの小学校だったと思います。

これは保育園でやっているところです。

これがどこかの図書室だと思います。

今みたいに、いろんな場面で、学校の教室の中で交流していくのが湘南プログラムです。

そして、2つ目に平和交流プログラムがあります。平和交流プログラムは、1番と似ているんですが、今度は実際に戦争の事実を2つの国で共有していこうということですね。

これはひめゆり会館の前でインドネシアの学生が4名と、インドネシアの文学部の部長さんと日本語学科の学科長さんと、真ん中の白いマスクは、藤沢の平和の輪をひろげる実行委員の方です。左側にいる人はタクシーの運転手さんです。

これは広島です。

彼らはこちらに来て戦跡を回って、戦跡を理解するだけではなくて、藤沢に戻りますと、3日間ぐらい缶詰になりまして、中学生向けの資料とか、パワーポイントをつくらせて、これは300名との交流です。

これも交流の場面です。その子たちは、バンドン、インドネシアに戻りまして、フォーラムを開きます。平和フォーラムということでやっていますが、ことしもまた開か

れます。多分ことしはこの倍ぐらいの人数になると思います。

そこで、ことしはバンドン市の平和首長会議への加盟が決議されて、請願されると思います。

これは学生たちが鶴を折っているところです。

特攻隊について勉強しています。

これは特攻隊の勉強を2時間ぐらいた後に、特攻隊として使われたゼロ戦のプラモデルをつくっています。

これは特攻のときの基地の近くにあった富屋食堂のおばさんのひ孫さんのお子さんが大学で講演しているところです。

3番目の事業が、絵本で子どもたちの世界を広げるプログラムです。これは中学生とインドネシアの貧困の子どもたちをつなぐということです。藤沢市の中学生が古本屋で絵本を集めて、それをインドネシアの日本語学科に送って、それを翻訳してインドネシアの貧困の子どもたちに読み聞かせをする。

これは御所見中学校です。

六会中学校。

これは明治中学校の生徒がポシェット、絵本を入れる袋をつくっています。

これで空輸の準備をしています。

インドネシアに届きました。

紙の書きかえをしています。

これは現地のNGOに行って、絵本を読む場所を探しています。

これは現地のスラムに行ったところです。

これは絵本の読み聞かせをする場面です。

読み聞かせ。

読み聞かせ。

読み聞かせですね。

これは最後の集合写真です。

右側のほうに袋を持っていますが、これはみんな藤沢の中学生がつくった袋です。

これは市の発表会で御所見中の子が発表している写真。

これはインドネシアの孤児院で子ども食堂をやっている写真です。

これは学生たちが御所見でやっている子ども食堂を見て、まねをしたということで

す。

終わります。

(新實部会長) お時間になりました。

では、発表が終わりましたので、委員の皆様からご質問等をお願いいたします。

(未来創造事業実行委員会) 何でもどうぞ。

(関野委員) 書類審査の後に、委員からの質問等が結構来ていると思うのですが、私が出した質問ではなくて、ほかの方の質問の中に、団体が何を目標しているのか改めて聞きたいというコメントがあったかと思います。交流関係の維持というのも結構目的化している部分もあると思うんですけども、最終的にどういうふうに。実際に体験した、こちらに来た学生さんがどうなっていくといった部分での目標しているものをお聞かせいただければと思います。

(未来創造事業実行委員会) 簡単に言うと、遊びじゃないんだけど、みんなで楽しむということかなという気がします。そんなに高い理想とかは持っていませんが、インドネシアと日本の若者がかかわりながら、社会貢献みたいなことをしながら、それをみんなで楽しむということかなと思っています。

(関野委員) どちらかというと交友関係そのものが目的に近いということですか、楽しんでというのは。

(未来創造事業実行委員会) さっき言ったように、遊びじゃないんだけど、楽しむことはポイントとしてすごく高く持っていますね。

(坂井副委員長) 今回応募いただいているのはステップアップ支援コースですから、初めての活動じゃなくて、これまでもやっているけれども、さらに向上していく、よくなっていくための支援のコースということなので、それを踏まえてお聞きしたいんですけども、これまでの活動から今回の助成金を得て、今までのこういうところをよくしたいとか、将来に向かってもっとこういうふうに発展させたいというところがあれば、お伺いしたいと思います。

(未来創造事業実行委員会) この資金を使ってということには結びつかないかもしれませんが、我々がやっていったときに、今、インドネシアには 30 人ぐらいの社会貢献グループがあるのです。21 世紀のための友情計画というのがあるのです。藤沢にはないんです。ないというか、あるんだけど、ほとんど親睦団体になっちゃっているんです。それをもうちょっときちっとしたいという感じはすごくありますね。

インドネシアの子たちは日本の人より結構暇なんだよね。カラオケはないし、プロ野球もないし、Ｊリーグもないし、大相撲もないし、お酒は飲まないから宴会もないし、こういう活動にみんなワースと集まってくるんです。日本人は結構忙しいんです。まずアルバイトがすごくあるからね。僕らが結ぶんじゃなくて、日本の若者とインドネシアの若者がつながるようにしたいというのが強くありますね。ミライカナエルのお金ということにはつながらないですけど、そういう意識はありますね。

(森田委員) 申請書の事業目的のところに「同じ時代を生きる者として、様々な課題を共有し、広い視野を求める若者を育てる環境を」ということで、時代もどんどん変わっています。そうすると、インドネシアの状況も変わるし、日本の状況も変わるし、若者の状況も変わっている。その中で確かに課題を共有するというのはそれこそ地球規模の環境課題であったり、経済の問題についても必要だと思う。その辺をおっしゃっているのかなと思うんですが、今の発表だと、文化の交流だけで仲よくなったらいいなとなると、この目標とちょっと乖離があると思うんですけども。

(未来創造事業実行委員会) 湘南プログラムは仲よくなればいいんです、ある意味で割り切っちゃえば。平和交流プログラムは違うんです。さっき説明しなかったですけど、中学生と交流しているときに、インドネシアの先生が、原子爆弾が落ちたことはよかったことだと言うんですよ。原子爆弾が落ちたから、日本が負けて、インドネシアは独立できた。それで日本の中学生はすごく驚くわけです。逆に、インドネシアの教科書には、第二次世界大戦のときに、日本人がひどいことをしたと書かれているということが出てきたりするわけです。それでまた今度は日本の中学生が驚いたりするわけです。そういう交流とかがありますね。

それから、さっきの平和フォーラムの中では、１つのポイントとして、化石燃料減少社会における日本の代替エネルギーの解決策と問題点がテーマになります。そういうことについてもフォーラムの中で話し合われます。

(森田委員) とすると、今回申請をされている湘南プログラムはどのような位置づけなんですか。そこと平和交流プログラムと何か関連性というか。

(未来創造事業実行委員会) 僕の説明が悪かった。平和と持続可能性。平和の中には異なる国や異なる民族の者が互いを理解して、ある部分ではリスペクトできる関係をつくっていかないと、戦い合いになっちゃいますよということ。インドネシアの人たちはおもしろいなと感じてほしい。ただ、そうじゃなくて、過去に起こった戦争とかの事実や現

在る武器とはどういうものなのかとかいうことを両方の国で事実として共有していくことが大事だ。平和交流プログラムの中では、なぜ放射線ががんを呼ぶのか、初歩的なことを言うとそういう話も出てきます。

絵本のプログラムも、結局貧困という問題があったときに、日本の中学生は何もできないじゃないですか。お金も持っていないし。だから、絵本を向こうに送って、貧しい子たちの世界を広げることによって、インドネシアの学生を真ん中に挟んで、それをつないで解決していこうということです。説明が足りなかったかな。

(森田委員) 3つある中で今回、湘南プログラムを支援の対象にしたのはなぜですか。

(未来創造事業実行委員会) 一番広範囲にわたって藤沢の子たちにつながるということと、打算的な言い方ですけど、絵本のプログラムはいろんなところから結構お金が集まるんですよ。湘南プログラムは3つの中でお金が集まりにくいということがあるのです。それもあるかなという気はします。かかわっている生徒というと、平和交流だと300人ぐらいなんだけど、湘南プログラムだと藤沢の中学生1200名ぐらいと交流しますから、かかわっている子たちは藤沢の子が多いですね、湘南プログラムはね。

(新實部会長) では、最後に私から質問させていただきます。インドネシアの留学生の方がきょうわざわざ来てくださった。日本語1級だから大丈夫ですね。ちょっとお聞きします。インドネシアで子ども食堂をされたという話をお聞きしましたが、かかわっておられるのでしょうか。そして、子ども食堂を、日本から刺激を受けて、今どういう形でされているのか、ちょっとだけ説明をお願いします。

(未来創造事業実行委員会) ご質問ありがとうございます。直接は子ども食堂を行ったとき、私は日本にいました。だから、直接かかわったのが私の後輩たちになりますので、詳しくはあまりわからない。ただ、インドネシアの貧しい子どもたちにインドネシアの料理をつくって、日本の料理もつくって、それを紹介して、食べさせてもらっています。それだけは知っています。でも、詳しくはすみませんが、わかりません。

(新實部会長) 大丈夫です。このように交流の結果が出ているのがわかりました。

では、以上で時間になりましたので、湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会のお2人、ありがとうございました。

以上で全ての団体のプレゼンテーションが終了いたしました。団体の皆様におかれましては、大変お疲れさまでした。すばらしい発表をありがとうございました。

ここで事務局にお返しいたします。

(事務局) 新實部会長、ありがとうございました。団体の皆さん、発表、ありがとうございました。採択結果は、後日郵送にてご案内いたします。

以上をもちまして、本日の公開プレゼンテーションは終了となります。委員の皆様は休憩をとっていただきまして、午後 3 時 40 分から引き続き本会場で審査会を行いますので、よろしくお願いいたします。

発表団体の皆様、傍聴者の皆様におかれましては、出口にてアンケート用紙を回収いたしますので、ご提出の上、お忘れ物のないようお気をつけてお帰りください。

この後、こちらの会場を使用いたしますので、大変申しわけございませんが、速やかにご退席いただくようお願いいたします。

本日、朝日町駐車場にお車をとめた方は、駐車券を事務局職員へお渡しください。
認証機の処理をさせていただきます。

本日はありがとうございました。

(団体退室)

午後3時27分 休憩

午後 3 時 38 分 再開

[illegible]

(2) 審査選考

(藤沢市情報公開条例第6条第3号に基づき非公開)

○スタート支援コース・ステップアップ支援コースの審査選考において、スタート支援コースの採択団体は「働く授乳コミュニティ Cocochie（ココチエ）」、「特定非営利活動法人育ち合い広場・てとてとて」、「辻堂砂山子ども食堂」、「Will CONNECT」、ステップアップ支援コースの採択団体は「湘南多文化ガーデン」と決定された。

40

(事務局) 審査選考、ありがとうございました。採択結果につきましては、後日団体へ郵送させていただきます。また、結果の送付にあわせて団体への意見表にご記入いただいたご意見も団体に送付いたします。紙の団体への意見表にご記入いただいた場合は、この後、事務局職員にお渡しくださいますようお願いいたします。まだ記入が途中の場合は7月8日、月曜日中に Google Form でご入力いただければと存じます。

採択団体に向けたご意見をいただける場合は、今後の活動の応援のメッセージなど、追加でいただけますと幸いです。紙で意見表のご提出をしていただいても構いませんし、Google Form でご提出していただいても構いませんし、先ほどもお話の中で上がりました、メールでベタ打ちでご提出いただく形でも構いませんので、ご対応のほどよろしくお願いいたします。

今回の委員会は9月27日、金曜日、午前10時から Zoom での開催となります。詳細につきましては、後日開催通知等でご案内いたしますので、ご確認くださいようよろしくお願いいたします。

最後に、本日朝日町駐車場にお車をとめた方は、駐車券を認証いたしますので、事務局にお渡しください。

事務局からは以上になります。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

閉会

(山岡委員長) それでは、以上をもちまして、第4回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。本日は長時間にわたり、大変お疲れさまでした。

午後4時52分 閉会